



題字 出口直日

通巻第569号
 発行 大本東京本部
 東京宣教センター
 センター長 浅田秋彦
 〒110-0008
 東京都台東区池之端 2-1-44
 TEL 03-3821-3701
 FAX 03-3821-5283
 振替 00160-5-72625
 URL <http://oomoto-tokyo.com>
 Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

古より説ける教は多けれど

まことの神の教旨はこの教

出口王仁三郎聖師

「私に会いたくば物語を読みなさい」

祭務課長 高野 春樹

今、自身にとってかつてないほど『靈界物語』拝読に精しています。昨年末、「天祥地瑞」全巻を読了しそうだったので、今年「靈主体従」子の巻から拝読し始めて、どれぐらいの期間で全巻拝読できるか試そうとしたことがきっかけでした。実際には少し早目に八十一巻を終えたので、一巻は昨年の内に終え二巻から始めました。

拝読の時間帯は夕食後の二時間ほどです。会話や宣伝歌の個所が多い章は速いですが、説明が続く章はなかなか読み進めません。一番拝読できるのは宿直の時で、二、四時間ほどしています。

「靈主体従」十二巻は神代の物語で、善神邪神を含め大勢の神々さまが登場され、宝玉の取り合いなど権謀術数の限りを尽くす凄絶なストーリーが展開されます。拝読するのにつらい場面が幾たびも出てきて、気の弱い私には耐えられない情景の連続です。しかし聖師さまが靈界探検で見聞されたと言われていますので、すべて事実なのでしょう。

「靈主体従」の巻を終え「如意宝珠」の巻に入りますと、大分内容が落ち着いてきて、拝読し易いと言っては語弊がありますが、滑稽諧謔、抱腹絶倒というような場面がよく出てきて、拝読の速さも加わります。素盞鳴命の御神業に奉仕する三五教宣伝使の活躍と、慢心と改心を繰り返す高姫の蠢動も見ものです。心の悪魔、心猿意馬に操られる高姫の心情に同情しつつも、また慢心かい々とツッコミを入れながら読み進むしかありません。

また、元ウラル教宣伝使の亀公、音公、梅公らが修行を積み重ねて、大黒主を言向和すために派遣される立派な宣伝使になっていく出世物語でもあります。

聖師さまは「私に会いたくば物語を読みなさい」とおっしゃったとお聞きしています。身を磨く、言霊を練る、腹筋を鍛えるなど、良いことづくめの物語を一章でも拝読し、この天地を善言美詞の言霊で清めましょう。



教主さまお作 灰釉茶盃 銘「世界平和」

【金龍海香島冠島土+金龍海五大洲土・本宮山松+月宮宝座松+二代教主さまお手植え神島松+金字松+元屋敷松+木の花桜+竜宮海海水+金明水+玉水+龍宮神社水釉】

ますます広がる

21世紀の新しい社会

〈立替え立直しの時代を元気に生きる道〉

株式会社あえるば会長・エコノミスト

藤原直哉

過去30年世界を席巻した
体制が終わろうとしている

本日のテーマになっている「立替え立直し」は、政治や経済といったシステム（体制）の「立替え立直し」のことです。今まさにこの「立替え立直し」が行われているように感じます。

「新自由主義」の裏側には「市場原理主義」「規制緩和」という言葉があります。合法的とはいえ、「利己主義」「弱肉強食」の世界です。カネのある人が低金利で借金をさせて、最後には元本ごとぶん取ってしまう。しかもその財産はごく一部の人が握っています。それでも「まだ足りない」と言っていて、さらに格差を生んでいます。

世の中は二元論で動いています。例えば、善と悪、プラスとマイナス、この論理で運動しています。「新自由主義」の世界では、最終的に勝つか負けるかのどちらかになります。これまでは強者の論理でシステムを動かしたり、所得や軍事力の差を利用しながら、世界

を運営してきました。

日本は元来、二元論の国といわれています。一時は敵と味方に分かれたときがあっても、最後は水に流す文化がありました。稲作や農業を通じて、自然の恵みを受けながら生きることによって、生命は最後に一つに還るということを、肚でわかっていたのだと思います。

いつまでも二元論で物事を進めていくと、しまいに絶滅状態を招きかねません。それでも「勝って生き残るんだ」という人が、今の世の悪の根源じゃないかなと思います。最後に残った人たちは、中途半端に頭の良い人たちです。創造主の存在を信じて、世の中のこと全てを、空想上の理屈で考えようとする人たちです。議論するにしても、勝ち負けのフレームのなかで、常に話をしたがりです。なかには「経済学で解決できない問題はない」とか、「儲からないのは本人の能力が足りないからだ」と平気で、しかも真面目に言う人もいます。しかし、その人たちも今は、おとなしくなりはじめています。自然の摂理

に素直に従いましょう」と、という他力的な境地です。

仕事においても同様で、想いが形になるような環境作りが大切です。「なにかをしたい」という想いが極まって、パツと形になるわけです。無から有がうまれる瞬間です。ですから、組織運営にしてもヨコ型で自由にモノを言わせないと、よい会社にはなりません。

一方、現代のネットワーク社会の広がりによって、層をなしているようにみえます。なににも「ありがたい、もつたいたい」と幸せを感じる人には、やはり同じことを共感できる人が集まります。良いものは良い、悪いものは悪いとはつきりと層が生まれてきた。これも一つの「立替え」といえるのではないのでしょうか。

ポトムアップで広がる

「立直し」の実相

私はこの業界に長くいますが、あの昭和バブル末期の、とんでもないカネまみれの時代。その時代と同じやり方で成功している人は、一人もみだことないですよ。この25年間、個人や企業の「立替え」が進んだと思います。苦勞と努力を重ねて、「カネも要らん、地位も要らん」と余計なもの、変なものを削ぎ落とした人たちが、いま元気に残っています。無私の状態になって、初めて無

も分からずに、自分の理屈を重ねてやってきた結果、いよいよ行き詰まりをみせています。要するに、この人たちは、本当に大事なことが何なのか分からないのです。

この30年間、アメリカを中心とする金融や軍事産業がなにをしてきたか？ これから本当の秘密が明らかになってくるでしょう。99%の気持ちの分かる人たちが、1%の追い出しをはじめます。大逆転のはじまりです。

極端に広がった格差社会は上位1%の自壊という皮肉な結果となりそうです。これは、神と学との大戦の結末だと思っています。

現実と照らし合わせて考える
「立替え」の実相

日本では、約5千年前に農業がはじまったといわれています。自分で決めた場所に種を植えると、そこに実が成ります。もとは何もない場所から、巨大な実りをいただくのが農業です。自分から積極的に動かなくては、農業は成立しません。自分の想いと自然のエネルギーが感応した結果、収穫があります。無の状態に人間がはたらきかけて、有（実り）となる世界です。そこには感動があります。感謝があります。自然の恵みが神々しくなるのは当然だと思います。

それを思うと、現代人の生き方といふのが、このエネルギーが生まれるのです。こういう人たちは「おかげさま」や「ありがとう」の感謝の言葉が出るようになります。立替えの厳しさが生んだ、明るく温かい人たちです。厳しさによって肚がすわるんです。苦勞がないと魂は磨かれないのです。

近年「口ハス」とう言葉も生まれました。健康で持続性の高い社会と、生命の根源を実感する生き方と表現できるかと思えます。大宇宙は生成化育、つまり浄化の作用が絶え間なくなされています。いつも清潔ですから、大宇宙は健康ですね。地球が誕生したときは硫酸と岩の塊り、放射線の世界でした。それが幾億年の年を経て、このような美しい大宇宙の世界がつけられた。大宇宙の無のエネルギーが、地球、そして人類を育てたのです。

「立替え立直し」の
転換期を生きる

終わりと始まりの関係は、ブラックホールとビックバンの関係と相似しています。無の状態であるブラックホールの極限状態になると、ビックバンに移行し、有の世界が広がります。終わりと始まりは同じ場所にあるということです。例えば、今の仕事を辞めようか悩んでいるとき、偶然の出会いにより縁がうまれて、新しい仕事に就くこともありますよね。8月15日は終戦で

うのは、どこか不自然な気がしませんか？ 無から有をつくるということ、日本は5千年も続けているのに、今の政治家や実業家は、このことを分かっていない人が多いんじゃないでしょうか。私たちは常に大自然からエネルギーをいただいているということ。その当たり前のことが分らないから、理屈を重ねて学問に頼ってしまっています。

農業や人の教育の本質を求めていくと、生命の根源を実感できます。もとはこの世の向こう側からきているということ。生命の根源は「あの世」要するに大宇宙にあります。大宇宙の無のエネルギーから生まれているのです。無のエネルギーで動いているということを実感しないと、カネや知識ばかりに関心がいつてしまつて全体が狂つてしまします。生命の根源がどこにあるかを実感することが一つの関門です。人を育てるにしても、農作物を育てるにしても、時間をかけて開発し、能力を引き出せば可能性が広がります。でも「そんな面倒くさいことはしたくない」と、すぐに結果を求めて、個々の能力や技術に値段や価値をつけると、かえって役に立たなくなるものをつくってしまします。

いまの世の中をみると、無の状態から、天地の恵みや大自然の力を利あるのと同時に、戦後の始まりでもありました。

健康で持続性の高い社会は、自分をつくらないとできません。それを進める力がビックバンであり、一人ひとりの大事な仕事だと思っています。

健康で持続性の高い社会は、共生社会とも言い換えられます。その姿は、大自然を観察すればおのずとわかります。ライオンが他の動物を支配しているわけではないです。大木が他の植物を支配しているわけでもないです。大きいものも小さいものも、自分の役割と場所が与えられたなかで生きています。住み分けをしています。これが素晴らしい共生社会ですよ。競争を避けるために、住み分けをするのがこの世の真相だと思えます。

そのためには、世界中の人たちが、その土地で住み続けられるように、まずは農業から始めるべきです。大自然のなかで、一人ひとりが自分の役割を自覚することです。そうしたら、それぞれの生きる道が見えてくると思います。黙っていても良い世の中はきません。自分がいかに貢献できるか。それは、自然に対して謙虚であり続け、無私の境地に入ったときに見えてくると思います。

(終わり)

掲載文は、平成28年4月20日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。



直属信徒研修会

東京本部直属信徒研修会は、6月26日午前9時30分から東京宣教センターで開催され、8人が参加した。



宣伝歌「月光世に出づ」を実習

同研修会では、「神まつり、みたま(祖霊まつり)」、「信仰について」の講話のほか、宣伝歌「月光世に出づ」、愛善歌「瑞声」の実習、茶席入席、お作品拝観などを行った。参加者からは、「飲ぎの座ではみなさんの体験談などを聞くことができ、神さまの偉大さを感じた」「大本の墓地や埋葬についての方法や考え方が勉強になった」などの声が寄せられた。

東光苑月次祭

東光苑月次祭は7月12日、午前10時30分から、斎主・高野春樹祭務課長のもと執行され、338人が参拝した。

祭員は東京主会、少年祭員は東京主会の伊藤瑠依くん、涌井三四郎くん、鈴木愛徠さん、玉置巴さん、伶人は二絃の会関東支部、大本神論拝読は飯田多津子茨城主会長、添釜は東光庵にて中村社中が担当した。

祭典後、浅田秋彦本部長がいさつに立ち、まず教主さまの「ご静養のご様子」について報告。次いで「熊本地震災害義援金」に対する信徒各位の支援に対して謝辞を述べ、7月9日から本部職員が出向している第7回災害派遣遺隊について報告した。また、9月8日の「神島開き百周年記念祭典」現地代表参拝の説明と、遥拝祭参拝のおすすめののち、神島祭典

同日、天声社から発刊される教典『いのめしんゆ』を紹介し、「現行の『大本神論』7巻に続く、立て直しのご神諭として、極めて重要なご神示であり、ぜひ拝読いただきたい」と述べた。

引き続き、生命山シユバイツアー寺代表・古川龍樹氏がいさつ。死刑廃止運動に携わる古川氏は、「福岡事件」で死刑になった西武雄さんのえん罪を訴え、再審請求活動を展開し来苑した。

最後に、飯田俊明総代、宮下愛善千葉主会宣伝部長が、10月16日に横須賀市の走水神社で執行される「聖師さま関東ご巡教並びに走水神社参拝百周年記念祭典」の歴史的意義と趣旨を説明し、大勢の参拝を呼びかけた。

大本公開講座

「第161回大本公開講座」は、7月20日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、中里洋教学研鑽所事務局員が「神と人の関係く人は神の子神の宮く」と題して講話した。参加者は26人(内一般6人)。

講師は、「人は神から霊力体の三元を賦与され生かされている」として、自身の経験談を交え、一霊四魂を与えられている人の尊さ、現界に生を受けている人としての使命などを力説した。参加者からは、「人の魂が、勇・親・愛・智と、働きによって細かく分かれることを知りました(男性・一般)」等の声が寄せられた。

東光苑道場講座

日時 9月17日(土) 午前8時半受付
～19日(月・祝) 午後4時ごろ閉講予定
会場 大本東京本部・東京宣教センター
参加費 1人4,050円(期間中の食費・宿泊費)
※資料「修行のしおり」(別途500円徴収)
内容 大道場講座初日から現代の大本まで
※但し、神苑案内と高熊山参拝を除く
申込み 食事・宿泊を明記の上、東京宣教センター愛善宣教課「東光苑道場講座」宛にお申込み下さい(定員30人)
締切 9月7日(水) 必着

東光苑秋季祭式講習会

日時 9月24日(土) 午前9時より受付
～25日(日) 午後5時ごろ閉講予定
会場 大本東京本部・東京宣教センター
参加費 1人1,000円
※食事・宿泊代は別途実費を徴収します
内容 初級クラス：基本動作から月次祭まで
中級クラス：庭上祭・葬祭など
申込み 受講クラス・食事・宿泊を明記の上、東京宣教センター祭務課「秋季祭式講習会」宛にお申込み下さい(定員40人)
締切 9月19日(月) 必着



講師は、「人は神から霊力体の三元を賦与され生かされている」として、自身の経験談を交え、一霊四魂を与えられている人の尊さ、現界に生を受けている人としての使命などを力説した。参加者からは、「人の魂が、勇・親・愛・智と、働きによって細かく分かれることを知りました(男性・一般)」等の声が寄せられた。

東光苑祭典・行事予定

8月

7日(日) 午前10時30分執行
開教百二十四年 瑞生大祭遥拝祭
8日(月) 午後5時20分執行
神集祭遥拝(初日・旧7月6日)

14日(日) 午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭
14日(日) 午後5時執行
神集祭遥拝(最終日・旧7月12日)

17日(水) 午後7時～8時30分
大本公開講座(航空会館・港区新橋)

講座 大本の霊界観
目に見えないものを信じて生きる
講師 鈴木林太郎(愛善宣教課主事)

9月

11日(日) 午前10時30分執行
東光苑月次祭・全国一斉世界平和祈願祭・長寿感謝祭・交通安全祈願祭・

秋季合同慰霊祭
15日(木) 午後6時
東光苑秋をめぐる夕べ
17日(土)～19日(月)
東光苑道場講座

21日(水) 午後7時～8時30分
大本公開講座(航空会館・港区新橋)

講座「大本の教風」く根源美の探求
講師 出口飛鳥
(メディア愛善宣教課主事)

23日(金・祝) 午前10時30分執行
三代教主毎年祭(26年)

24日(土)・25日(日)
東光苑秋季祭式講習会